

No. 98

すくらむ

2022.10.14 発行



福井県特別支援教育センターは、県立病院関連四機関の4階にあります。

P.1

巻頭言

「いつも一緒があたりまえ」

P.2

・令和4年度の研修講座について

P.3

- ・研修講座で紹介された書籍・教材の紹介
- ・特別支援教育コーディネーター養成研修（高校）の紹介

P.4

- ・第68回福井県特別支援教育研究大会坂井大会（R6全国大会プレプレ大会）のご案内
- ・実践研究発表会のご案内

巻頭言 「いつも一緒があたりまえ」

鯖江市惜陰小学校 校長

藤枝 美由紀 氏

先日、鯖江市連合体育大会が3年ぶりに開催されました。コロナ感染症の影響により、午前中で競技が終了するように、6年生だけが参加する大会となりました。100m走や走り幅跳び、ボール投げといった陸上競技には、学年代表の男女2名ずつが出場し、陸上競技選手以外の児童は8の字回旋跳びに出場します。本校の特別支援学級に在籍しているA君も、8の字回旋跳びに出場します。「A君にできるのかな?」「跳べないA君に対して、同じチームの子たちはどう思うのかな?」と、心配ばかりが募ります。

夏休み最終週から練習はスタート。リズムカルに回る縄に、「入る、跳ぶ、出る」というルーティンを、間をあげずに続けていきます。A君は列の一番後ろに担任の先生と並んでいました。様子を見てみると、縄を跳ぶことはできません。担任の先生は縄が上にあがったタイミングで、彼の背中を押します。すると縄に吸い込まれるように入り、そして素早く出てきます。8の字回旋跳びではなく、見事な8の字回旋抜けです。時々、A君の体に触れた縄がうねっても、先頭の子は跳びにくさを微塵も感じさせることなく、間髪入れずに反対側から縄に入ってきます。失敗することもあります。「大丈夫」「あわてないで」と優しい声が飛び交います。それはA君以外の子が失敗しても同じでした。仲間同士が声を掛け合って、記録に挑戦する姿から、A君を特別扱いしていたのは自分だけだということに気づかされました。6年生にとってA君は、6年間共に学び、生活してきた大切な仲間であり、それは他の同級生も同じ存在だということです。6年生73人の8の字回旋跳びを通して、子どもたちの無限の可能性や思いやりに感動するとともに、障害の有無にかかわらず、お互いの人格や個性を尊重しながら、共に認め合い、支え合い、誇りをもって生きられる共生社会は決して理想ではなく実現できるということを実感することができました。



令和4年度の研修講座について

今年度の研修講座は、6講座をオンラインで、2講座を集合型で開催しました。開催にあたり、多くのご理解・ご協力をいただき、ありがとうございました。研修の様子についてお伝えします。

研修講座No.1「発達障がい児の感覚と運動の支援」

本講座では、長崎大学生命医科学域 教授 岩永竜一郎先生から、姿勢保持が難しい、過敏症である、筆圧が強（弱）すぎる、文字の形が整わないなど、力加減が難しい発達性協調運動症（DCD）の子どもたちについての理解や支援について、オンラインにてご講義をいただきました。

はじめに、DCD児は、自己概念が弱く、友人関係が苦手だったり抑うつ傾向が見られやすかったりし、二次的な問題につながることもあるので、自己効力感を高めていく必要がある、また、注意欠如・多動症（ADHD）や自閉症スペクトラム（ASD）とDCDの併存率が高いので、ADHD児やASD児の支援の際にDCDへの支援を同時に考える必要があると教えていただきました。

運動面への支援では、感覚統合療法や姿勢・筋緊張・筋力を高める活動、目と手の協調活動についての具体的な支援方法、日常生活での工夫や不器用さに対する支援グッズなどもご紹介いただきました。

感覚面への支援では、環境調整や防衛グッズの使用、刺激の段階付けを行い、刺激の受け入れの幅を広げていくとよいこと、自分で楽器を鳴らす、歯ブラシを自分で持たせ、手を添えて大人が動かすなどといった能動的感覚体験が重要であるとお話されました。

発達障がい児者の感覚や運動面の困難さの背景や支援方法のあり方について、たくさんのお話を教えていただき、それらの苦手さを抱えている子どもの理解を深めるよい機会になったのではないかと思います。

【受講者からのアンケートより】

・通常学級において、姿勢保持が難しい子や文字の乱雑な子などに対し、これまで怠けていると決めつけてしまうことがありました。今後は、いろいろな特性や困りの背景を意識しながら対応していきたいと思います。

・DCD児の多くは、自己肯定感が低いことを知りました。子どもの背景にある感覚、運動面での困難さを把握し、それらを軽減するためのアプローチをしていくことの大切さを再認識しました。

研修講座No.8「特別支援学級の取組」

本講座は、「小中学校の特別支援学級における指導や学級経営について、実践報告や参加者同士の情報交換から学ぶ」ことを目的に集合型で開催しました。午前の部、午後の部それぞれ、県高校教育課特別支援教育室の藪 勝氏、前田 由紀氏 より、福井県の特別支援学級の現状や特別支援学級の特色についてのご講義をいただいた後、実践報告と情報交換を行いました。以下にその内容をお知らせします。

小学校

福井市河合小学校の三上幸江先生

学級経営で心がけていること、交流学級や地域の中学校との連携について大切にしていること、自分でできることを増やすための自立活動での工夫、教師のロールプレイを通して児童同士で考え合う工夫など、具体的な取組を交えてお話をいただきました。

「小中の連携」「交流及び共同学習」「自立活動」について、グループで意見交換を行いました。また、三上先生の実践報告を聞いての感想や質問、自身の悩みなども出し合いました。学級経営の取組や自尊感情を育むなどの自立活動の指導について、意見交換したり悩みを共有したりしました。

中学校

若狭町立上中中学校の中村 阿友美先生

特別支援学級担任として心がけてきたことを中心に、生徒や保護者と相談し、様々なことを試しながら合理的配慮を決めていった経過や、将来の自立を見据えた丁寧な進路指導、生徒自身が伝えられるようになる力を引き出す指導、保護者との連携の工夫等について、お話をいただきました。

「進路指導」「保護者対応」について、グループで意見交換を行いました。早い段階から学年主任を含めて話し合いを重ねていくこと、将来の目標をもとに進路を考えること、実際に見学や体験をしていくこと、保護者や他機関と連携していくことなど、進路指導で大切にしている視点や取組について、悩みを共有したり、意見交換したりしました。

実践報告

情報交換

【受講者アンケートより】

- ・動画や写真を交えた特別支援学級の具体的な取組を聞くことができ、とても分かりやすく、具体的に学ぶことができました。
- ・同じグループの先生方の実践や考えに触れて、自分の実践の振り返りや捉え直しにつながりました。いろいろな校種の先生方と自由に話し合いができたことが良かったです。



研修講座で紹介された書籍・教材の紹介

今年度の研修講座で講師の先生から紹介された書籍や教材です。一部を紹介します。ぜひ、日々の授業や子どもたちへの指導に生かしてください。

【研修講座No.3】 特別支援教育の視点で考える授業のユニバーサルデザインー特別支援教育の視点と教材の研究をつなぐー



特別支援教育士SVの資格を持つ山田充先生が、巡回相談、就学指導、教育相談、校内研修など多岐にわたって指導支援をしてきたこと、対応のコツがまとめられています。



漢字がなかなか覚えられない子どもにとって、イラストがあることでイメージしやすくなり漢字を覚えやすくなります。

2年生と3年生は、上下版があります。

【研修講座No.5】 学びにくさのある子への読み書き支援ーいま目の前にいる子の「わかった!」を目指してー



学びにくさのある子への読み書き支援について、見えている姿から仮説を立て、手立てを試みた事例を通して具体的に学ぶことができます。



ディスレクシアの当事者である井上智さんの体験談に心を動かされたという受講者の声が多くありました。当事者への理解を深めていきましょう。



おなじみの教材です。2021年夏に改訂され、感覚過敏に対応したICTを活用した支援についても加筆され、内容もさらに充実しています。

特別支援教育コーディネーター養成研修(高校)の紹介

昨年度と今年度は、高校の先生方の受講者数が多いこともあり(15名の先生方が受講)、高校の受講者のみでグループをつくり、高校の先生方のニーズに合わせた内容の講義や演習を行いました。

- 【内容】
- ①校内支援会議の進め方
 - ②保護者を交えた支援会議 ～特コとして大切にしたいこと～
 - ③発達障がい基礎および個別の指導計画の作成

③の講義と演習では、発達障がいや思春期特有の疾患についての基礎知識を講義で聞いた後、事例をもとに、生徒の気になり行動の背景や支援について、複数人で検討する演習を行いました。



受講者の声

特コの役割の重要性を改めて感じた。支援を考えるときには、偏った情報収集にならないようにし、生徒に寄り添った視点を忘れないようにしたいと思う。

情報収集や見立て方、対応を考えるのは難しかったが、他の先生方の考えを参考にしながら、なんとか方向性が出せたのはよかった。



グループ(チーム)で考えることで、多様な意見や支援策が考えられることが実感できた。

支援が必要な生徒の問題点ばかりに目を向けがちだが、いいところの中から手がかりが見つかるということを学んだ。

短い時間で盛りだくさんの内容を知ることができ、充実していた。演習がたくさん組み込まれており、いろいろな先生方の考えなども知ることができ、よかった。

第68回福井県特別支援教育研究大会 坂井大会(R6全国大会プレプレ大会)のご案内

大会長の板庇 貴美恵校長先生
(春江東小学校)にインタビューしました！

今年度の福井県特別支援教育研究大会は、3年ぶりの参集型とオンデマンド配信とのハイブリット型で開催されます。また、本大会は2年後の「令和6年度全日本特別支援教育研究連盟全国大会福井大会」のプレプレ大会と位置づけられ、全国大会の分科会を見据えた6つの分科会で提案がなされます。

大会後日には、発表資料をGoogleドライブにアップします。6分科会すべての発表資料にアクセスすることができます。ぜひ、たくさんの方々にご視聴いただけることを願っています。

なお、本大会にご参加いただきました先生方には、2年後の全国大会を踏まえ、いろいろなご意見をいただけたらと思っております。本大会が令和6年度の全国大会につながる大会になりますよう、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

**主 題：「 変化する社会の中で 自分らしさを生かし 生き生きと輝く子どもたち
～教育的ニーズに基づいた一人一人の育ちを求めて～ 」**

日 時： 令和4年11月25日(金) 13時30分～16時

**会 場： 全体会 ハートピア春江
分科会 ハートピア春江、春江中コミュニティセンター**

日 程：

受付	全体会	休憩	分科会
13:00	13:30	14:00	14:20
			16:00

実践研究発表会のご案内

テーマ：特別なニーズのある子どもを支える～連携や協働を通して～

特別なニーズがある園児児童生徒への指導や支援の在り方、園・学校内外で連携して取り組む特別支援教育に関する実践研究の発表を通して広く意見や情報を交換し、指導の一層の充実と教職員の資質向上を図るため『実践研究発表会』を毎年開催しています。ぜひご参加ください。

ただ今、発表者募集中です。詳細は発表要項をご覧ください。(ホームページにもアップしています。)ご応募をお待ちしております。

発表者募集の締め切り：令和4年11月10日(木)

日 時：令和5年2月7日(火)

発表形式：参加者と遠隔システムでつないで実施

◎各所属校・機関からご参加いただけます！

☆12月末に開催要項を配付しますのでご覧ください。

また、ホームページでもご案内いたします。

発表者

募集中です！

▼令和3年度参加者の声

・自分の日々の取組の見直しや新たなヒントをいただくことができた発表がありました。

・オンラインということで、授業のない先生方に声をかけて参加してもらいました。来年も積極的に呼びかけようと思います。

センターだより

すくらむ 第98号

発行日 令和4年10月14日
発行所 福井県特別支援教育センター
所在地 〒910-0846
福井市四ツ井2丁目8-1
TEL (0776)53-6574
FAX (0776)52-6272
E-mail tokuse@pref.fukui.lg.jp
URL <http://www.fukuisec.ed.jp>